

次世代インフラの構築に向けた取組

国土交通省

平成25年3月

次世代インフラの構築に向けた取組

ねらい: **安全・安心**で**快適・効率的な**社会を支える次世代インフラの構築

最先端のICT(情報通信技術)等を活用し

より価値の高い社会インフラを再創造

①安全・安心な
社会資本整備・管理

○社会資本の
戦略的な維持管理・更新

- 非破壊検査技術の開発・導入
- 維持管理・更新に係る情報の蓄積・活用

○災害に強い国土づくり

②安全、快適・効率的な
交通の実現

○安全で効率的な人と車の
交通

- ITS技術の高度化
- ICTを活用した歩行者移動支援

○快適・便利な地域公共交通

③活力ある国土・地域の形成

○次世代住宅・まちづくり

- スマート住宅、スマートシティの実現

○海洋開発による富の創出

- 洋上風力発電・海洋資源開発の実施

○都市緑化による快適な暮らし

次世代インフラの共通基盤

○国土基盤情報の整備

○建設生産プロセスの高度化

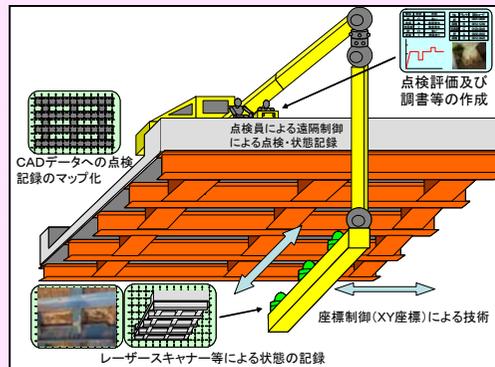
これらの技術は、今後のアジア諸国のニーズを見据え、**海外展開も視野**に入れ、戦略的に推進

○社会資本の戦略的な維持管理・更新

■非破壊検査技術の開発・導入

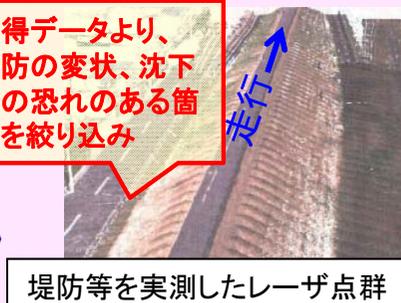
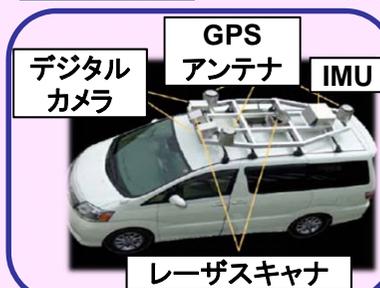
➤老朽化が進行する道路や堤防等の構造物に対する非破壊検査技術を開発促進し、現場へ積極的に導入・検証することで、維持管理の効率・効果の向上を図る。

＜レーザー scanner 等の機械調査の導入＞



河川堤防の点検において
データ確認+目視確認

取得データより、堤防の変状、沈下等の恐れのある箇所を絞り込み



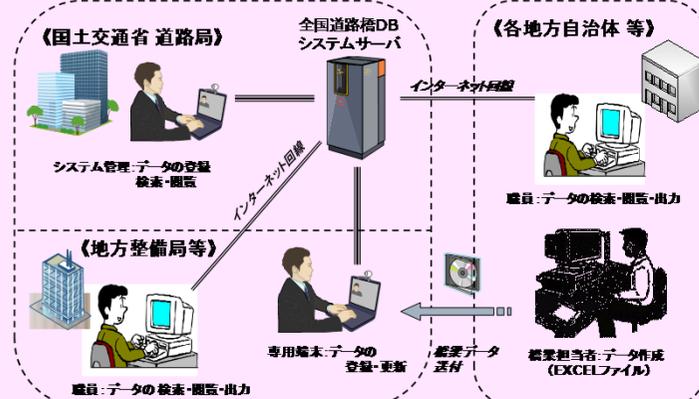
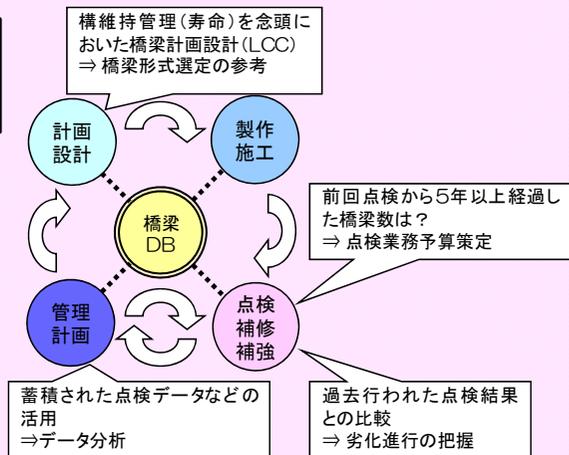
- ✓ 高精度・高効率
- ✓ 維持管理データとして利用

＜モバイルマッピングシステムによる管理技術の効率化＞

■維持管理・更新に係る情報の蓄積・活用

➤インフラの施設状況の見える化を進めるため、施設毎の現状等の情報をデータベース化し、当該情報のプラットフォームを構築。

橋梁の例
(活用イメージ)



上記取組とともに、維持管理等の専門技術を有する人材の育成が重要